

いしゅうれつぞう

かきでせきせう

夷酋列像(1790)は、蠣崎波響(1764~1826)

の代表作であるとともに、広く知られたアイヌ絵のひとつです。

このシンポジウムでは、夷酋列像のフランス流出をめぐる最新の研究報告に加え、夷酋列像を世界史教材としてとりあげた道立高校での歴史実習を報告します。さらに本作品が内包するポリティクス(政治性)について議論し、夷酋列像の社会的意義を問います。

《夷酋列像》から学ぶ・考える

北海道大学

アイヌ・先住民研究センター

シンポジウム

海外流出の謎とポリティクス

10.3(土)
2026

13:00-17:00 開場 12:30

参加無料

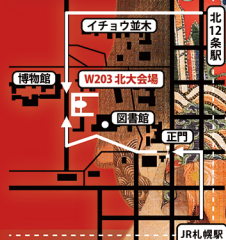
事前予約制

会場とZOOMの同時開催

受付フォーム <https://x.gd/4hc56>
裏面のQRコードからもアクセス
できます。お申込み詳細は裏面を
ご参照下さい。

申込期限：9月30日(水) 24:00

北海道大学 人文・社会科学
総合教育研究棟 W203



蠣崎波響《夷酋列像》「ツキノエ」(部分)

1790年フザン美術考古博物館蔵

©Musée des beaux-arts et d'archéologie
de Besançon